

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 中部山岳国立公園施設整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部環境企画課自然公園係 電話番号：058-272-1111 (内 2698)

E-mail： c11265@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 40,718 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	40,718	20,359	0	0	0	0	0	0	20,359
決定額	35,122	17,561	0	0	0	0	0	15,800	1,761

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

近年、中部山岳国立公園 (本県) の入込者数が減少し、国立公園及び周辺地域の活力の低下が懸念されていることから、平成 29 年度に、活性化の基本方針となる「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画」を策定し、これらにおいて、同公園に関する情報の集約・発信や環境教育等の拠点となる総合的な利用拠点 (ビジターセンター) の整備を目指すこととした。

平成 30 年度から、県、高山市及び地元関係団体と「岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会」を設立し、地元と連携して本地域の魅力造成や発信の取組を行うとともに、来訪者の利便性向上等を図るビジターセンターの在り方等を検討し、整備の方向性を固めた。

<入込者数>

平成 22 年度：約 128 万人 → 平成 30 年度：約 104 万人 (▲17%)

(2) 事業内容

ビジターセンターの再整備にかかる建築、設備、外構、展示物の基本設計、実施設計 40,596 千円

(3) 県負担・補助率の考え方

中部山岳国立公園の活性化を図るため、既存の県有施設をリニューアルするものであり、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事委託料	40,596	委託料（建築設計、設備設計、展示物設計）
事務費	122	旅費、消耗品、公用車燃料費、同使用料等
合計	40,718	

決定額の考え方

- ・ 事業内容を精査し、所要額を計上します
- ・ 財源に県債を活用することとします

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略（Ⅲ－５「まちをつなぐ」）

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想（平成 29 年 7 月策定）

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画（平成 29 年 12 月策定予定）

(2) 国・他県の状況

国（環境省）

：国立公園満喫プロジェクト（平成 28 年度～）

平成 28 年、国立公園満喫プロジェクトの対象 8 公園に準じる公園とされた。

(3) 後年度の財政負担

- ・ 県、高山市、地元関係団体の間で役割分担しながら実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

- ・ 既存の県有施設のリニューアルを図るものであるため妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和3年度に建物、設備、外構、展示品の基本設計・実施設計を行い、令和4年度に各工事や制作の委託、什器等の購入を行い、令和5年度を目標にリニューアルオープンする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

天候や社会情勢など様々な要因により入込数変動するため、指標は置かない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会に有識者5名、地元関係者6名、県・市行政関係者7名からなる検討部会を設けて検討を重ね、ビジターセンターの基本構想・基本計画に反映させた。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

ビジターセンターに必要な機能等を基本構想・基本計画にまとめた。
高山市の奥飛騨温泉郷活性化基本構想との連携により、周辺施設などと一体的に機能を果たすことが可能となる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	国は、国立公園満喫プロジェクトにおいて、2020年における国立公園の外国人入込者数を2,000万人とする目標を掲げており、当該施策に沿った事業である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 市の奥飛騨温泉郷活性化基本構想に基づく駐車場整備計画等との調整

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 検討過程で得られた意見や要望等を踏まえ、総合的な利用拠点に相応しい設計を行うとともに、ビジターセンターで実施するソフト事業について検討を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】